

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている</p>		<p>会社の取り組みである、地域密着委員会を通じて意見交換を行い更なるサービス向上に努めて行きます。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>「自分らしく最後まで」新しい「家族」の理念の基、お一人おひとりが満足、希望に添った生活が送れるよう支援している。</p>	<p>理念実践のため、介護職員として当然である、言動、行動などを介護の心得10条とし宣言している。介護の心得10条を、毎朝申し送り時に唱和し意識向上に取り組んでいる。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域の方々には、ホームでの出来事(行事、イベント)ご利用者様の生活状況)を通信として発行している。ご家族様へはホームの通信と一緒に、お一人おひとりの生活状況を毎月一回ふれあい通信として発行し送付している。</p>	<p>会社としての理念、事業所としての理念を掲示板に貼り出し、理解して頂けるよう取り組んでいる。</p>
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩・買い物・ホーム周辺の清掃の時に、気兼ねなく挨拶するように心掛けている。また、近隣住民の方から野菜を頂いたり、職員が独居の方の家に「出向き枝きり」を手伝ったりし交流をしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>下の府1区の夏祭りや地域の子供神輿に参加させていただいたり職員と地域の方だけでなく、ご入居者を交えて交流している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域密着委員会を会社全体で毎月1回実施している。他事業所がどのような活動、地域貢献をしているのか意見交換を行っている。また、意見を基にホーム内でも月1回ミーティング時に話し合っている。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に2回自己評価実施中である。自己評価を基に管理者、職員と話し合いよりよいサービスに向け取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。各ホームの現状報告をさせていただき、出席者の方から評価、意見、質問、アドバイスをいただき、ケア、サービス向上に活かしている。		地域の方も参加して下さるので、地域行事などについて詳しいお話も聞く事が出来ている。地域の方と一緒に頑張ってより良いサービスとなるよう取り組んでいきます。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に役場、社協に出向き意見交換する事で「関わり」を深め、協力し合えるよう取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修、勉強会にて学んでいる。また、必要とする方には活用している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時や申し送り時に意見を出す事で、拘束、虐待防止に努めている。また、日頃から職員同士話し合う場がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだ後、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前にホーム内見学や相談を受けている。また、リスク面、重要事項を伝え理解、納得していただいている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・要望シートを作成している。小さな事(言葉・表情)からでも拾い上げ、お一人おひとりの希望に沿えるよう努めている。</p>		<p>苦情・要望は運営推進会議、家族会などで多方面に伝えている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行しているふれあい通信にて、健康状態、行事などの報告をさせていただいている。金銭管理については、毎月1度領収証と合わせ報告とさせていただいている。</p>		<p>職員の異動、担当の引き継ぎについては、ふれあい通信で知らせたり、面会時にお知らせしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や運営推進会議、ご家族面談時に伺うようにしている。記録として残し閲覧できるようにしている。また、早急に対応するように話し合いの場がある。</p>		<p>小さな不満や要望も聞き逃さず、対応できる事は早急に行うよう努めている。また、予測できる不満や要望を全職員で考えていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は毎月行われるミーティングで業務見直しの提案、行事の提案を受け止め、理解し可能な限り反映している。運営者は定期的に行われる会議にて意見、提案を聞く機会がある。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事、受診、外出などあらゆる場面で職員数が不足とならないよう勤務調整をしている。また、利用者に迷惑とならないような勤務調整を念頭に職員も理解が出来ている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の希望休、希望勤務に柔軟な対応をしている。また、異動、離職となった場合でも一定の期間引継ぎをし、利用者に迷惑とならないよう配慮している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>年齢や性別等、理由とせず募集、採用している。また、得意、不得意を当然と考え最大限自己を發揮する場所となるよう配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日々の勤務の中で取り組みがあり、毎月のミーティングの場でも虐待、拘束について話し合い、人権教育に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修、外部研修、勉強会などに参加出来るような勤務調整を行っている。また、今年度より新たな研修機関を設け育成することに努めている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者と地域の行事で関わり合ったりし、交流を深め意見交換、情報交換により、より良いサービスとなるよう取り組んでいる。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>働きやすい環境作りのための研修や業務見直し、賃金改定等を行いストレス軽減、やりがいが出る職場作りに取り組んでいる。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>年二回の自己評価により職員の努力、実績を把握出来るようにし、向上心を持って働けるよう努めている。また、やりがいと達成感が確認できる人材育成プログラムを打ち出している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族、関係者からの情報を基に、ご本人のお話を傾聴、不安に思われている時等は精神面のケアを重視し、ご本人すべてを受け止める努力をしている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から何でも発言できるように雰囲気作りを目指している。また、ご家族の思い、不安を傾聴し受け止め、共有するよう努めている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>現在の生活状況や、サービスをどう利用するか相談を受けたりし、他事業所を含めた対応をしている。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>あらゆる情報をご家族からいただき、入居前から管理者、職員で話し合い孤立してしまわないよう心掛けている。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご入居者の方に対し、尊厳と尊敬を念頭に共に喜べる事を探し、共に分かち合える環境作りに努めている。</p>	<p>過去のお話(仕事・生活)から、話題を見出し質問し、学び、共有する事で支えあう関係が構築出来るように努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との交流やコミュニケーションを図りご家族の立場、職員の立場からご入居者を支えていく環境作りをしている。		面会時などにコミュニケーションを密に取り、ご家族から過去の情報をいただき、よりよい生活に反映できるように努めている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	ご家族、ご本人の思いを十分に理解できるように努め、双方が無理せずより良い関係が築いていけるよう努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	ご自宅、ご友人との繋がりなどご家族との連携、協力を得ながら支援している。		ご友人、知人との繋がり、接点が無くなる様にご家族に協力していただく事に努めていき、生活の継続となるよう支援していきます。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている	利用者同士の相性を把握しつつ、日常生活の中、またレクレーションを通して職員が間に入り関わり合えるよう支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お亡くなりになられた方のお参りをさせていただいたり、草花、野菜を頂いたりと関係を保っている。また、ホーム行事などで作った料理を差し入れるなどし交流を図っている。		契約上の終了に重きを置かず、人と人との繋がりを大切に、分かり合える関係を大切にしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全てのご利用者に対し、ケアプランを通じて意向に沿えるよう努力している。		対話を中心にご利用者の思いや意向を引き出す努力をしている。引き出せた思いや意向を要望シートに書き出し、解決に向け職員同士話し合っている。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が把握できるように、情報提供書へ家族構成、生活歴など分かる事は何い、フェイスシートを作成している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録、個人申し送り帳、申し送りにより全職員が把握できるように努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族との面談を行い、カンファレンスを実施し介護計画を作成している。介護計画作成に対してマニュアル化されており、確立されている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活を把握した上で評価、分析を行い、カンファレンス実施後見直している。また、急変などが生じた場合は緊急カンファレンスを実施し全関係者の情報を基に新プランを作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはフォーカスチャート方式を用いて、介護計画に反映した記録を行い、ケアカンファレンスの場で活用している。また、実践結果やご家族からの情報は個人申し送りにも記入している。		介護記録について勉強会を実施した。全職員統一した記録を行うことにより介護計画の見直しに活かし、さらにより良いケア、サービスに役立てたい。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出レクリエーション、個人レクリエーションには特に力を入れている。また、要望に応じて食事時間の変更、散歩時間の変更をし、柔軟な支援をしている。		小さな要望、隠れたニーズを探し出し、よりよい支援に繋がって行きたい。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に2回の防災訓練では消防署員の方に毎回出向していた。また、色んなアドバイスを基に安全な設備を維持し、支援している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じてご家族様納得の上訪問マッサージを利用している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に出向き、情報交換を行っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の定期往診があるが、ご本人の状態に応じ往診に来ていただいている。また、往診の方には、毎月情報提供書をいただき介護計画への反映も行っている。介護上の留意点についても記載されている。		主治医とは常時相談できる体制であり、助言、アドバイスを頂いている。また、24時間連絡がとれる体制である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医に利用者の状態をこまめに報告、相談し必要であれば、主治医より認知症専門医の診断、治療を行えるよう支援している。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携で看護師の方には定期的に来ていただいております。職員からの相談なども気軽に行える関係である。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	普段から医療機関に出向き、情報交換を行いながら連携を取っている。また、入院時には定期的に利用者の現状把握に努め、関係者と相談の上利用者、家族が安心して過ごせるようホームでの受け入れ態勢を整えている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居説明時に、重要説明事項を用いて重度化した場合の説明、了解を得ている。		終末期を迎えた場合、ご家族の希望を伺いホームでの生活が可能の場合ターミナルケア同意書を頂いている。ご家族、主治医と密に連携を図り対応を全職員統一出来るよう情報を共有している。
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームで出来る事には限りがある為、主治医、かかりつけ医と連携を取りそれぞれの役割を認識しチームケアに取り組んでいる。また、その中で今後有る得る状況を検討し、方向性を話し合い準備している。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住の際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やケア関係者等と利用者の現状やニーズ、リスクを明確に出来るよう話し合いや情報交換を行うよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>尊重、尊敬する事を念頭に、自尊心を傷つけないような声掛けをしている。また、記録などの個人情報については、常日頃から守秘義務の重要性について学んでいる。</p>	<p>ステーション以外の持ち出し禁止、ステーション外から記録などが見れないように徹底している。</p>
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>日々の生活の中で職員の決めつけがないように、ご本人が決定権を持てるような声掛けを心掛けている。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>希望・要望などは、出来るだけ実現できるように支援しているが、業務優先になってしまう事がある。</p>	<p>すべてにおいてご利用者を優先出来る環境を作ることに努める。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎月訪問理美容を利用している。ご本人の意向を大切にするため利用するか、どのようにするか必ず確認している。</p>	<p>身だしなみを整える事やお洒落をする事は当然の権利である。その方らしく、自分らしいお洒落が出来るよう努めている。</p>
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご本人に無理とならないよう配慮しつつ、食事の準備やテーブル拭きなど職員と一緒にやっている。</p>	<p>その日に食べたい物など要望があった場合は、出来るだけ要望に添って努力をしている。また、季節の物を提供する事により話題が増え、楽しく食事ができる雰囲気作りをしている。</p>
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご本人から要望があった時には、一緒に買い物に出掛け、なるべく要望に添える努力をしている。また、お酒が好きなご利用者の方には晩酌を日常的に楽しませている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を実行出来ている。また、介護計画にあげる事で色々なサービス内容の工夫が出来ている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯は一切決めていない。希望した時に入浴出来るよう支援している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者の状態を考慮したうえで、出来るだけ日中体を動かしていただいたり、臥床時間を減らせるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や今現在の状態を考慮し、出来る事、やりたい事を日々観察し支援している。洗濯物たたみや料理の下ごしらえなど生活の中での役割、楽しみな事を出来るよう支援している。		一人ひとりの健康状態、精神状態をしっかりと把握し、ストレス発散や気晴らしの為外食やドライブ、買い物などによる個人レクを実施している。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を管理されている方には、お金を使える環境を作るようにしている。また、使った金額、物品に関してはすべて記録に残すようにしている。		所持金、預かり金がない方には立て替え金として管理している。所持していない方でも家族了解の上、お金が使える環境を支援している。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常的に行っている。散歩に行かなかった日でも、一緒に洗濯物を干したり日光浴をしたり1日中ホーム内で過ごさないように支援している。		定期的な外出レクリエーションを実施している。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	演劇鑑賞や水族館などに行き、思い出に残るような外出支援をしている。また、ご家族の協力により自宅に帰られたり外食に出掛けたりされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時には、電話を掛けられたりされている。また、年賀状や暑中見舞いなどをご家族、知人に宛て送れるように支援している。		文字を書く事が難しい方でも、手紙のやり取りが出来るよう個人レクとして職員マンツーマンにて手紙を書き上げれるような支援を行っている。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	常時訪問していただける体制である。気軽に訪問していただけるよう職員はご家族とのコミュニケーションを密にとっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、抑制に対してケアの実践の中で疑問に思った事などは職員同士で話し合い、ミーティングでも議論し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		新人職員もいる中で、全職員統一した正しい知識でケアを実践出来るように勉強会、研修を実施している。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は電子錠であるが、外出希望の利用者には安全確保のため、見守りや付き添いが出来るように体制作りをしている。夜間は防犯のため施錠している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に全職員が意識し所在確認が出来ている。また、夜間帯居室を開けられることに抵抗がある場合は、プライバシー保護のため生存確認が出来れば居室を開けないようにしている。		所在確認、様子観察を徹底することで、ご本人の思い、行動を察する事に繋がる。決め付けてはいけませんが、予測対応するなどして安全に配慮している。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自宅になるべく近い環境で生活していただきたいと考えている。整理整頓や歩行状態等に注意し、その時その時の状態に応じて危険を防げるよう努めている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月のミーティング時に、リスク委員を中心とし1人ひとりのリスクマネジメント情報の共有を図り、全職員の知識向上を目指し、事故防止に取り組んでいる。また、誤薬の危険性などを考えながら服薬の際には必ず複数の職員で確認している。		会社全体でリスク研修がある。1人の知識とせず持ち帰ることでホーム全体の知識向上に取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内外部研修を経て対応出来るように努力している。また、救急隊員から指導をいただき心肺蘇生、止血方法を学んだ。		いつ何時起こりうるかもしれない急変に対して適切な対応が出来るよう今後も研修を続けていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署員に出向いていただき、避難訓練、防災訓練を実施している。また、災害時には地域の方からの協力が得られるように日頃より働きかけている。		防災委員を中心にして災害時俊敏な対応がとれるように機器の使用方法的勉強会を実施した。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	生活していく中で、起こりうるリスクを予測し介護計画見直し、切り替え時に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや表情の変化に細心の注意をし、小さな変化を見逃さないよう努めている。また、異変があった場合は申し送りや介護記録にて伝達し情報を共有している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも全職員が薬の副作用、用法、用量を確認出来るようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃の食事量、水分摂取量には全職員気を付けている。便秘になりやすい方には、乳製品の提供をしている。また、主治医との連携も図り対応している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施している。介助が必要な方にはブラッシングし、残渣物のチェックを毎回行い清潔に保てるよう支援している。		ご本人のIADL低下防止の為、出来るだけ自立支援に力を入れている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取には全職員注意し把握している。食事に関しても、1人ひとりにあった盛り付けなどを工夫している。また、主治医との連携で食生活の見直しが必要な方には、ご本人に無理のないよう食事が楽しいものであるよう工夫し支援している。		食事は生活に直結したものであるため、お一人おひとりの希望、要望を出来るだけ受け入れ、食事での楽しみ、喜びを感じていただけるよう支援している。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防、対応マニュアルを作成している。食事からの感染症を含め、理解、実践できるよう努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の使い分け(包丁、まな板)や煮沸、消毒、また冷蔵庫内の掃除、消毒等衛生管理を行い食中毒予防に努めている。		食事委員を中心とし食材の選択、管理方法、調理方法を明確かつ統一するため取り決め事項を作成した。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先の花壇やホーム周辺にお花を飾る事で、明るく安心した雰囲気になるよう環境作りを行っている。また、手入れをする時など、職員、利用者ど地域住民の方との交流の場となっている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝日や西日など不快と感じるような時にはブラインド、カーテンで調整している。また、季節のお花や摘んできたお花、写真などを飾る事により季節感、生活感を取り入れている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内や玄関にソファや椅子を置き、思い思いに過ごす場所が出来るよう工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、寝具、小物等持ち込まれ、配置にも考慮している。(ご自宅と同じ様な配置、希望される配置) 安心・安全で住みやすい環境づくりに努めている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング、居室の定期的な換気を行ない外気を取り入れている。また、温度計、湿度計で室温湿度の調整、エアコンでの温度にも配慮し、快適な生活空間となるようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を十分に活かせるような手すり位置、補助器具、物の配置となるようにしている。また、利用者によっても危険を感じられる場所、物が違つ為、日々の生活の中で考慮し工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を防ぐ為にも、目から入る情報の表示をし居室内ではお一人おひとりに合わせた表示方法となるよう工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	外周にはプランター、庭には植木、お花を植えている。植木の剪定をご利用者と一緒にしたり、お花を摘んでリビングに飾るなどして活用している。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム ウイズライフ新宮

項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の 2/3 くらいが
			職員の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の 2/3 くらいが
			家族等の 1/3 くらいが
			ほとんどできていない

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)